

学研労協 NEWS ニュース

サイエンスカフェ「つくろう！科学の輪 第6回」(8/24)を開催しました 「身近な昆虫をさがそう～あなたのまわりにいる虫のお話」 講師：守屋成一さん（農研機構）

学研労協とつくば市民大学が主催するサイエンスカフェ、「つくろう！科学の輪 第6回」では、農研機構中央農業総合研究センター病害虫研究領域の守屋成一さんを講師としてお招きし、「身近な昆虫をさがそう～あなたのまわりにいる虫のお話」と題して、身近な昆虫を題材として話題提供していただきました。

守屋さんは小学校の時に昆虫採集に目覚めて以来、昆虫に関わる研究をライフワークとして「網振り50年」というキャリアを誇る筋金入りの昆虫研究者です。前半の講義では、子供の頃から学生時代、現在までの守屋さんの昆虫とのかかわりや、これまでに業務としてかかわった害虫駆除の実例についてお話しいただき、特に、以下の2つの話題については、詳しくお話しいただきました。

【話題1】ブタクサを食い尽くす外来昆虫のブタクサハムシは花粉症の救世主？

【話題2】クリタマバチの天敵ってどんな虫？

話題提供の中で、病害虫の研究が花粉症対策や、栗の収穫量・品種の増加といった様々な側面から我々の生活に活かされていることを大変わかりやすくお話しいただきました。2番目のクリタマバチの実例では、実際に栗の新芽をお持ちいただき、クリタマバチの天敵が新芽の中に産み付けた卵を探して、ルーペで観察してみました。

また後半では、害虫駆除のフィールドワークの一環として、沖縄、イタリア、ブータン等で行われたお仕事について、写真を交えてご紹介いただきました。参加者からは、害虫の絶滅に到達するための方法、昆虫の「渡り」について、昆虫をタンパク質源として食用にすることなどについて活発な質問が行われ、サイエンスカフェを終了しました。

以下、参加者からの感想です。

- ・話のクオリティーがとても高いと思いました。
- ・せっかくの面白い話題なのに 人が少なくて残念
- ・昆虫一般の話かなと思ったのですが、クリタマバチを主に生態の話をきけて、勉強になりました。楽しく面白く、拝聴しました。
- ・天敵を使って、人の生活や健康に役立てるという発想に驚きました。

科学の街でもっと科学に触れてみませんか？ サイエンスカフェで聞いてみたい、知りたいことがありましたら、学研労協事務局までご連絡ください。